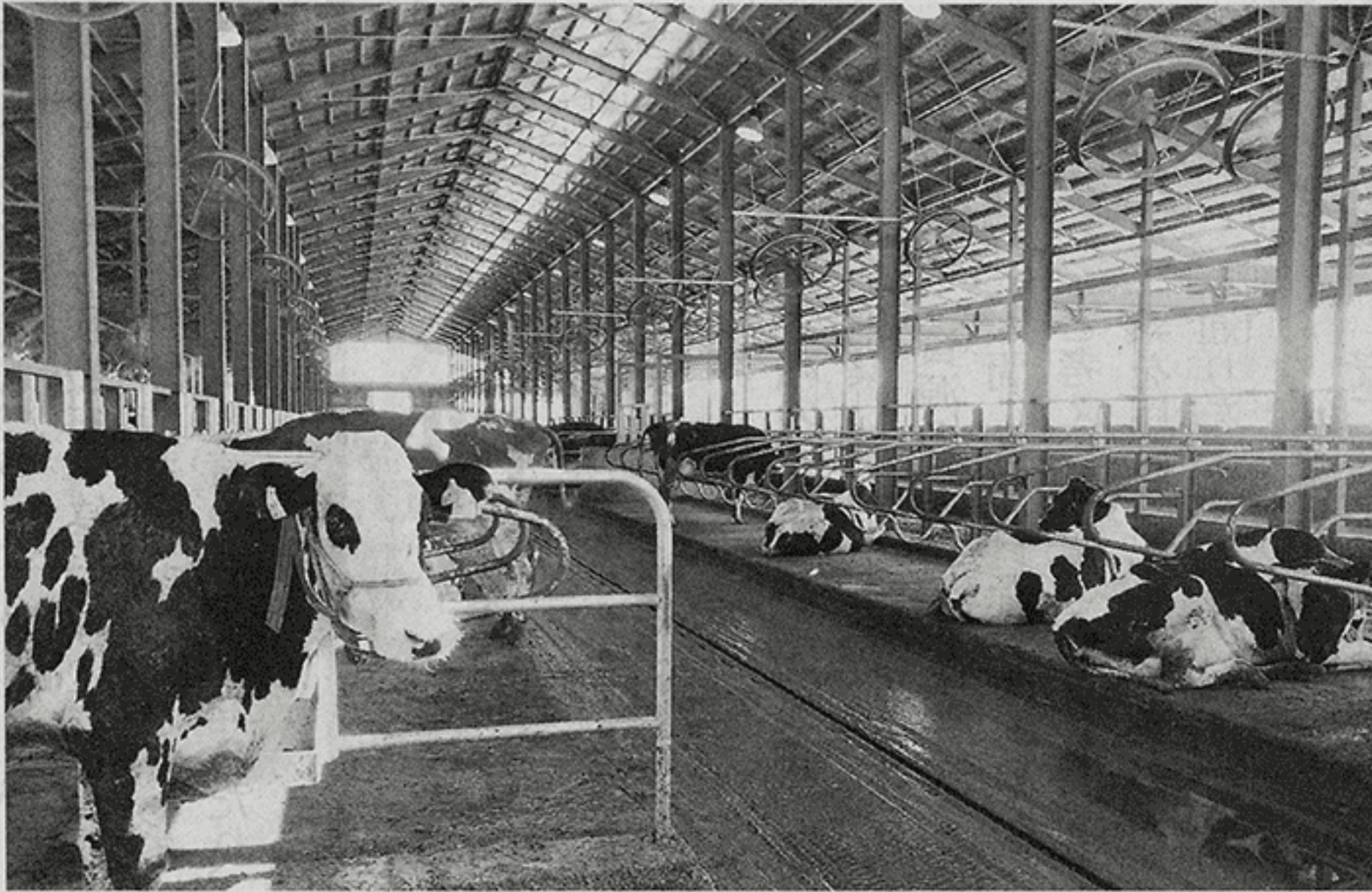


日本農業新聞

熱中症対策製品や照明の開発・販売などを手掛ける大作商事は、乳牛に優しい照明としてインダクションエコライト「iEL(アイイーエル)」を売り出している。発光ダイオード(LED)に比べ牛のストレスが少なく、乳量の増加が見込める。北海道本別町で酪農を営む佐藤俊行さん(44)は、アニマルウェルフェア(快適性に配慮した家畜の飼養管理)のためにも取り入れる。

資材
ナビ

牛舎用インダクションライト 大作商事



優しい光で乳量増へ

まぶしさをなく
ストレス軽減

iELは太陽光に近い明かりで、LEDに比べまぶしさや、ちらつきが大幅に少ない。同社によると、欧米では酪農でも一般的に使われているという。明るさが乳量に関係するという論文も複数発表されており、牛舎内を1日当たり16〜18時間明るく、6〜8時間暗くすると、飼料摂取量が増え、乳量も10%程度増加するとみられている。

佐藤さんは、3月から搾乳開始した佐藤さんの牛舎。佐藤さんは「柔らかく、牛に優しい光」と評価する(北海道本別町で「大作商事提供」)

乳を始めた新しい牛舎2274平方メートルに、iEL52個を設置した。「牛にとってストレスフリーの施設を目指した」と導入理由を語る佐藤さん。新牛舎は1800頭を飼養できる。つなぎ牛

舎からフリーストールに変更し、最新の搾乳ロボットを整備。次亜塩素酸水を作る機械を取り入れ、蹄病

(ていびょう) 予防に吹き掛ける他、暑熱対策のミスにも使い、牛が過ごしやすい環境を整えた。

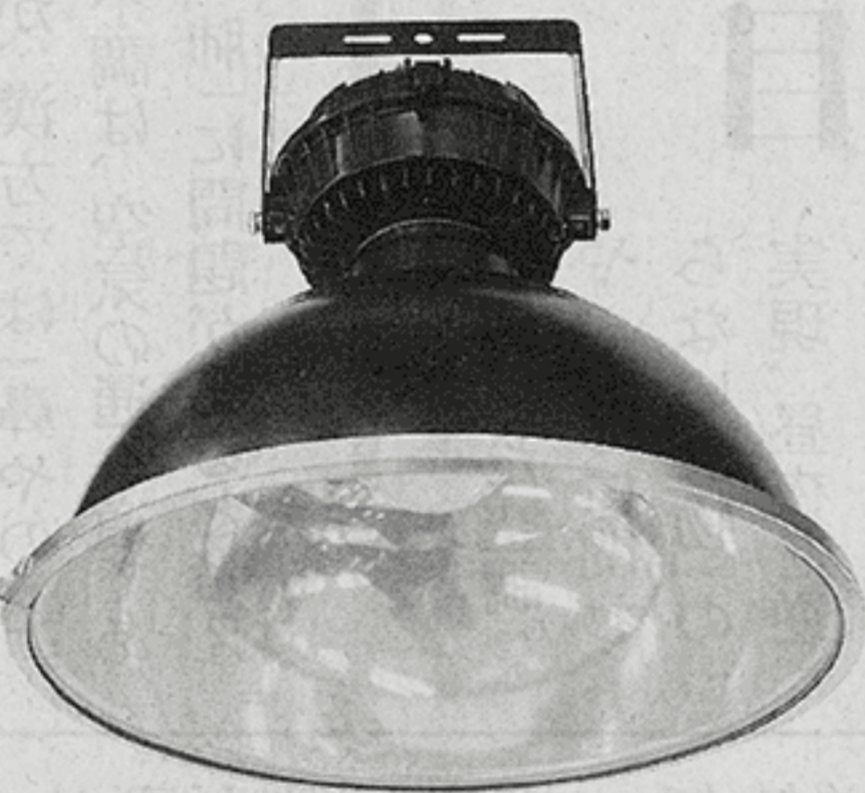
1日搾乳目標
1頭から40キロ

当初はLEDを設置する予定だった。展示会でiELの存在を知り、実際に使

っている人の話などを聞いて導入を決めた。「季節によって乳量変動し、光でコントロールできることは知っていた。値段が倍以上高くなるのでぎりぎりまで

「1頭当り1日の乳量を現在の32、33から40にするのが目標だ。」

iEL



iEL(大作商事提供)

独自のボール型管球と高効率反射板を採用し、自然な明るさと省エネルギーを実現した。無電極ランプで光量の減衰率が少なく、長期間メンテナンスの手間とコストがかからないのも特徴。年間消費電力を水銀灯に比べ約8割削減できる。

「iEL100」は100ワットで水銀灯400ワット相当の明るさがあり、カバー付きの希望小売価格は7万7000円(税別)。「iEL160」は160ワットで同700ワット相当、カバー付きで同8万4000円(同)。問い合わせは大作商事、電話03(65639)5900。

牛舎を見学できるスペースも新設した。将来は加工品の販売なども目指し、消費者に牛に優しい環境で育てていることを伝え、酪農への関心を高めようと取り組む。

大作商事はiELを工場向けなどに販売していたが、酪農家からの問い合わせを受け、2年半前から酪農向けの売り込みも強化。同社は「牛にストレスを与えない環境に注目が集まっている」と指摘する。導入コストは乳量の増加で、3カ月から1年半で回収できると見込む。現在、全国10戸ほどに導入され、来年度は10戸ほど増える予定だ。